

VII. 社会的活動

1. 社会的活動への取組み

(1) 観光文化研究所

1) 運営方針

本研究所は、1995年6月、内閣総理大臣の諮問機関である「観光政策審議会」の答申にもとづき、且つ地元九州における福岡県経済同友会などの要請に対応する形で1996年4月に設立された。

観光産業が国家の基幹産業として認識されるようになった昨今、観光への取り組み方も、環境への配慮など従来とは異なる視点が求められている。本研究所では、21世紀における観光産業のあり方について、その課題を明らかにし、実践的な活動を通じて、観光の健全な発展を図ることを目的としている。

福岡を中心とする北部九州は、以前から異文化交流の盛んな所であったが、近年、発展著しい東アジア地域と我が国との接点として国際化が進んできた。また観光は地元九州・沖縄でも地域経済を支える基幹産業として成長しており、それだけに地域経済の活性化や、生活環境の保全などさまざまな課題を抱えていることも事実である。2011年3月には九州新幹線が全線開通し、福岡の地はますます九州及び東アジアに向けた観光の発信地としてその役割が大きくなるのが今後予想されることである。

以上の経緯と背景から、九州という立地を生かし、また広く国際社会を見渡しなが、国内外との連携を図りつつ、新しい時代における観光のあり方を研究の目的とした観光文化研究所が本学に開設された次第である。

2) 活動の基本方針と特色

観光文化を学際的に捉えるため、比較文化や国際地域文化圏研究等を含むフィールドワーク、高度情報社会の基幹システムに成長したインターネット等のICT技術の集積、地域や観光産業と連携した高度な社会性を基礎に、現代社会で要請されている「観光文化研究の基礎づくり」をすることが本研究所の第一の目的である。また現代社会において、観光の果たしている役割はきわめて重要であり、本研究所では従来、さまざまな分野で個別に研究されていた観光を、それらの成果を踏まえながら、統合的な視野から学術的に研究することを目的としている。

具体的には、国際化時代に観光の果たしている社会的、経済的な役割を明らかにし、観光産業の基本理念として注目されているホスピタリティという視点からのアプローチを図ることを研究テーマとするとともに、21世紀の課題とされている「環境保全」を観光という分野から推進するエコツーリズムの研究や、地域再生という視点からの地域における観光の取り組みに力を入れているのが、本研究所の特色である。

3) 観光文化教育に関する研究

観光文化の教育に関する研究として、以下に挙げる活動を実施している。

- カリキュラムの研究
- インターネット等マルチメディアを活用した多角的、多元的教育の研究
- エコツーリズム、地域ツーリズムに関する研究及び研究会の開催
- 教育評価の測定に関する研究
- 学内外の関連教育機関との提携、交流、人材の発掘や育成

4) 観光文化における関連諸科学との総合研究

観光文化そのものに関する理論研究、および観光文化と関連する諸科学との学際的な研究として、以下に挙げる活動を実施している。

- 観光文化の普遍的命題の研究
- 比較文化や海外文化圏地域研究などとの共同による観光文化の深化と向上についての研究
- 観光文化の経済・社会への波及効果の研究
- 観光文化の質的・量的環境動向（予測）に関する研究
- 観光文化に関する公開講座や研究会等の開催と講師の派遣
- その他、研究所にふさわしい諸活動

*備考

本研究所は、上記の諸研究の他にも学内外に広く研究テーマを公募していく方針である。特に若手研究者の発掘と育成のための産官学共同による学術論文の募集と、共同研究の充実を図る。

5) 活動概要

a. 観光文化研究所所報第 16 号の刊行

2013 年 3 月 21 日付けで所報 16 号を発行した。第 16 号は、特集：観光学カリキュラム、研究所所員による研究論文に加え、外部の研究者からの寄稿及びエッセイなど計 8 編の記事を掲載した。発行部数は 600 部、装丁は A4 判、総頁数 72 ページ。

掲載原稿は下記の通り。

- ・東海大学観光学部観光学科のカリキュラム
 - －観光学の確立と産官学連携教育の実践を目指して 松本 亮三
- ・高等教育機関における観光教育の現状と諸問題 宮内 順
- ・海外の観光学教育の現状
 - －クイーンズ大学（オーストラリア）の事例 柏木 翔
- ・ルック JTB、商品開発の軌跡
 - －低価格競争からの脱却はいかにして行われたのか？ 藤本 幸男
- ・宗像市内の GMS における買い物動向調査の取り組み 佐竹 則昭
- ・新たな観光資源の可能性
 - －宮崎県日之影町「TR 列車の宿」を事例に 北濱 幹士
- ・Impact of Globalization on a Tourism Destination
 - －The Case of Luang Prabang, Laos Sho Kashiwagi
- ・Visiting Palm Springs, California Jean L. Ware

b. 講師の派遣

宗像市の主催するルックルック講座、協働大学等に講師の派遣を行っている。

c. 外部機関との協力、共同研究

- ・宗像市交通体系協議会への委員派遣

宗像市は、玄海町、大島村との合併により、新生宗像市として再スタートを切ったが、宗像市に併合されることになった大島村、地島では過疎化、高齢化が進み、離島への渡船サービスの健全な運営が重要な課題となっている。宗像市では、合併を機に、島民の利便性を損なうことなく、渡船の健全な運営を実現し、さらに市域全体に関わる交通体系の見直しを図る目的で、宗像市交通体系協議会を設置、観光による離島の活性化のためのインフラとしての渡船の位置づけを検討するとともに、宗像市の交通体系全般の見直しを行っている。観光文化研究所は、過疎地域における交通サービスの確保、地域社会への協力、将来的に観光による離島の活性化などの観点から、協議会に参加し、地域との協力体制の強化を図っている。

6) 所員構成

所長（2012 年度春学期まで）	宮内 順	国際文化学科教授
所長（2012 年度秋学期より）	西野 仁	国際文化学科教授
研究所員	神山 高行	国際文化学科教授
研究所員	林 鍾大	国際文化学科教授
研究所員	藤本 幸男	国際文化学科教授
研究所員	北濱 幹士	国際文化学科講師
研究所員	福田 伸也	学生支援室

(2) 連携 GP 研究室

1) 今までの活動

2009 年度に、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的短期大学連携支援プログラム（通称連携 GP）」として採択された、「地域の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の強化のための戦略的短大連携事業」は、北部九州（福岡・佐賀・長崎）の 9 つの短期大学が、学生募集等の競合関係を超え、短期大学の将来的発展に寄与するために連携し、「戦略的パートナーシップ」を結び、個々の短大の枠組みを超えた教育的効果をあげることを目的とするプログラムである。補助事業としては、2011 年度が最終年度となり、総括的な活動を行った。2012 年度は、2009 年度～2011 年度の 3 年間に、連携 GP 事業を通して収集した資料やノウハウを、本学の教育課程の改善に向けて役立てるよう研究事業を継続して実施した。特に、本学が、主担当である短期大学における「初年次・教養教育の共同開発」に向けて、フレッシュマンゼミナール等の運営を工夫してきた。

2) 今後の課題

一段と多様化し、多岐な目的を有する学生が入学してくる現在、入学直後に初年次教育を通して、短大における教育目標をしっかりと意識付けることが、それ以降の教育をより効果的に行うために不可欠であると共に、将来を見据えた教養教育の充実が長期的な視点から大変重要であると確信している。

今後さらに、本学が主担当として研究を続けている「初年次・教養教育の共同開発」に向けた活動を強化することで、この目標の達成に寄与すべく鋭意努めたい。

2. 国際交流・協力への取組み

(1) 海外研修

1) 韓国短期留学 A

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「韓国語 I」または「韓国語コミュニケーション I」を履修している国際文化学科及び情報処理科の 1・2 年生

授業科目：「韓国短期留学 A」（両学科共通科目 2 単位）

参加者数：学生 26 名、引率教職員 1 名

内 容：韓国語のコミュニケーション力の向上を目的とし、語学の授業が中心となっているが、同時に、韓国での実際の生活体験を通して、言葉をその文化とともに総合的に学ぶために必要な韓国文化研究と、将来アジアの観光分野で活躍することを希望する学生向けの観光研修プログラムも体験できるように構成されている。

期 間：2012 年 8 月 7 日（火）～21 日（火）の 15 日間

場 所：東義科学大学（韓国釜山市）

参加費用：60,000 円（内訳：福岡～釜山往復旅客運賃、港使用料、釜山港～東義科学大学送迎バス代、実習費、テキスト代、宿泊費、旅行傷害保険料、慶州・ソウルツアー代、等）

※このプログラムには、法人から 1 人あたり 2 万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

2) ハワイ短期留学

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「英語 I」または「英語コミュニケーション I」を履修している国際文化学科及び情報処理科の 1・2 年生

授業科目：「ハワイ短期留学」（両学科共通科目 2 単位）

参加者数：学生 14 名、引率教職員 1 名

内 容：ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）の現地スタッフによる英語の語学研修を中心とした 14 日間の短期留学プログラム。HTIC 内での英語学習や屋外での様々なフィールドワークへの参加を通じて、コミュニケーション能力を重視した実用的な

英語と異文化理解について学ぶ。

期 間：2012年9月5日（水）～18日（火）の12泊14日間

場 所：ハワイ東海大学インターナショナルカレッジ（米国ハワイ）

参加費用：190,000円（内訳：航空運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、HTICでの宿泊費・食費、研修費、教材費、施設入場料、現地バス代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

3) 韓国短期留学B

<プログラム概要>

対 象：指定関連科目である「韓国語 II」または「韓国語コミュニケーション II」を履修している国際文化学科及び情報処理科の1・2年生

授業科目：「韓国短期留学B」（両学科共通科目2単位）

参加者数：学生11名、引率教職員1名

内 容：韓国語のコミュニケーション力の向上を目的とし、語学の授業を中心に行われる。しかし、同時に、韓国での実際の生活体験を通して、言葉とともに文化を学ぶための韓国文化体験も組み込み、さらには、将来アジアの観光分野で活躍することを希望する学生向けに、観光研修プログラムも体験できるように構成されている。

期 間：2013年2月5日（火）～22日（金）の18日間

場 所：白石大学（韓国天安市）

参加費用：70,000円（内訳：福岡～ソウル往復航空運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、テキスト代、宿泊費、旅行傷害保険料、食事代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

4) 中国短期留学

<プログラム概要>

対 象：指定関連科目である「中国語 I」「中国語 II」「中国語コミュニケーション I」「中国語コミュニケーション II」のいずれかを履修している国際文化学科及び情報処理科の1・2年生

授業科目：「中国短期留学」（両学科共通科目2単位）

参加者数：学生7名、引率教職員1名

目 的：中国語のコミュニケーション能力の向上を目的に、北京第二外国語学院が実施する語学プログラムに加え、中国での生活体験を通し、中国の文化を総合的に学ぶために必要な実地研修を織り込んだ科目で構成する。

期 間：2013年3月3日（日）～16日（土）の14日間

場 所：北京第二外国語学院（中国北京市）

参加費用：90,000円（内訳：福岡～北京往復旅客運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、空港～大学間の送迎バス代、旅行傷害保険料、宿泊費用、現地交通費、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

5) 海外研修航海

<第44回海外研修航海>

参加者数：学生98名、団役員14名。うち、本学からは研修学生として国際文化学科1年2名（荒渡尚人、梅田直弥）が参加した。

目 的：学園の大学・短大に在籍する学生より広く公募・選考し、本学所有の海洋調査研修船「望星丸」（1,777トン）を使用して諸外国を訪問し、海外の諸文化、諸事情に触れ、国際的視野に立った世界観・人生観の確立をめざすと共に、船内という限られた生活環境の中で、教員、仲間との共同生活を通じ協調性を養い、より豊かな人間形成をは

かることを目的とする。

研修期間：2013年2月16日～3月28日（41日間）

研修都市等：パラオ→パプアニューギニア→ニューカレドニア→ミクロネシア

参加費用：458,000円

※このプログラムには、文部科学省による日本学生支援機構・留学生交流支援制度（SV）奨学金（1人あたり16万円）が研修学生全員に給付された。

(2) 留学

1) 交換留学

白石大学（韓国）と本学との交換留学生の派遣に関する覚書（2012年3月22日付締結）に基づき、国際文化学科1年4名（上野奈央、川上里美、楠原万悠華、田中つぐみ）が留学した。留学期間は2013年2月27日～2013年6月30日。

2) 派遣留学

2012年度東海大学海外派遣留学制度により、本学から留学した学生はいない。

